

「環境負荷物質に関する自主取組み」の進捗状況について現在の：取組み状況

日本に輸入される欧州製造車ならびに米国製造車は、本年より EU ELV 指令の環境負荷物質要求^(*)に準拠する態勢を既に整えております。

^(*) 欧州議会ならびに理事会指令 2000/53/EC、EU 委員会決議 による修正 2002/525/EC に基づく要求

具体例とスケジュール

	過去・今後の使用廃止・削減予定	備考
鉛	<p>2003年7月以降に市場導入される新型車は、以下の部品で鉛が廃止・低減**されました。</p> <p>タイヤホイールバランスウェイト 電気モーターのカーボンブラシ ブレーキリング中の銅**</p> <p>以下のものについては、既に鉛の使用が廃止されています。</p> <p>ラジエータ、ヒーターコア 燃料タンク、バッテリーケーブル端子 ハーネス類 PVC(塩ビ)の安定剤 エンジンピストンのコーティング クラッチ 等々</p> <p>2005年～2008年にかけて完全に鉛の使用が廃止・低減**されるもの</p> <p>電球バルブ、スパークプラグ(2005年初め頃) ホース類、電着塗装(2005年半ば) エンジンバルブシート(2006年半ば) エアバッグ類点火装置(2007年半ば) アルミ材[ホイールリム等](2008年半ば)**</p>	<p>将来(2008年以降)も鉛の使用が継続する可能性がある部品・材料</p> <p>鋼材(鉛量 0.35%以下) アルミ(鉛量 0.4%以下) 銅合金(鉛量 4%以下) 鉛青銅のベアリング ブレーキリング中の銅(鉛量 0.5%未満) バッテリー パワステーション 電子基盤・電気用途の半田 ガラス・セラミック材料に鉛を含有する電気部品(インジウム等) [電球バルブ、スパークプラグを除く]</p> <p>上記以外のもは全て鉛の使用が廃止される予定です。</p>
水銀	<p>既に水銀の使用が廃止されたもの</p> <p>ABS(アンロックブレーキ)の加速度センサー</p>	<p>将来(2008年以降)も水銀の使用が継続する可能性がある部品</p> <p>ディスチャージランプ インストルパネルのディスプレイ</p> <p>上記以外のもは既に水銀の使用が廃止されております。</p>
六価クロム	<p>今後、使用が廃止されるもの</p> <p>防錆コーティング[パイプ、ボルト等のメッキ](2007年半ば)</p>	<p>2007年半ばに六価クロムの使用が廃止される予定です。</p> <p>左記以外には六価クロムは使用されておられません。</p>
カドミウム	<p>今後、使用が廃止されるもの</p> <p>厚膜ペースト[ICチップ等に使用](2006年半ば)</p>	<p>2006年半ばにカドミウムの使用が廃止される予定です。</p> <p>左記以外にはカドミウムは使用されておられません。</p>

鉛削減の早期対応

いくつかの海外メーカーは、EU 指令の鉛の使用制限要求(物品・時期で規定)よりも早期に対応を開始しています。

(例)

ホース類(ゴム類の安定剤からの鉛の排除)
トランスミッションならびにエンジンのベアリング。
電着塗装から水性塗装への切り替え。 等々

環境負荷物質の管理

多くの海外メーカーは、各社手法は異なりますが、サプライヤーには、契約、品質/環境適合システム、サプライヤー認証の方法等で、EU ELV 指令の環境負荷物質要求への適合を求めています。

ドイツ自動車メーカーとボルボは、環境負荷物質の共通管理システム(メーカー・サプライヤーの環境負荷物質情報を、統一フォーム/データベース化する)を世界に先駆けて開発しました。現在は日本の自動車メーカーの大多数も参加する IMDS(国際的な環境負荷物質管理に貢献いたしました)として発展し、国際的な環境負荷物質管理に貢献いたしました。

以上。